



INGING MOTORSPORT



CERUMO

2019 SUPER FORMULA

JMS P.MU/CERUMO・INGING Race Report

Round. 5 ツインリンクもてぎ

決勝 8月18日(日)

天候:晴れ

コース状況:ドライ

2019年全日本スーパーフォーミュラ選手権の第5戦が、ツインリンクもてぎ（栃木県茂木町）にて開催、決勝（52周、スタートデレイにより1周減算）が行われ、38号車石浦宏明が6位。2ピット作戦を取った39号車坪井翔が17位でフィニッシュした。

#38 石浦宏明 6位

#39 坪井翔 17位



決勝日を迎えたツインリンクもてぎは、19,500人の観衆を集めた。予選日より若干過ごしやすい朝を迎え、風が暑さを和らげてくれていたが、気温はぐんぐん上がり、決勝時には37度にも達していた。ちなみに、ピット内は常に35度以上の暑さだった。

朝10時スタートの30分間のフリー走行は、38号車石浦が6位、39号車坪井が4位と好感触。しかし、セッション終わりでのスタート練習では、2台ともにエンジンストールで終えてしまった。

14時15分、オンタイムでフォーメーションラップがスタート。しかし、他車2台がエンジンストールをしてしまいグリッドにつけず、スタートがデレイに。ほどなく、フォーメーションラップ開始のアナウンスは流れたが、レースは1周減算され51周で戦うこととなった。

昨年、2ピット作戦が功を奏したという事例があり、もてぎラウンドの戦略は、ソフトタイヤスタート、ミディアムタイヤスタート、1ピット、2ピットなど、作戦の選択枝が分かれ、グリッドでライバルが装着しているタイヤにも当然注目し、戦略を立てることに。

5番グリッドからスタートの38号車石浦は、前車4台がソフトタイヤを装着していたことから、別の戦略を取りミディアムタイヤでスタート。ミニマムでピットインし、ソフトタイヤで決勝を戦う1ピット作戦を取る。6周目でピットインし、ミディアムからソフトタイヤに履き替えた。





2ピット作戦を取るクルマや早めのピットイン戦略を行うチームのピットのタイミングと重なったこともあり、思いのほか順位を下げた。18位でコース復帰。その後は、2ピット作戦のクルマのピットの出入りの状態で順位は変動し、実質のポジションまで順位を戻していく。27周目から38周目まで10位。その後も安定したペースでポジションを戻し、終盤には前を行く車をオーバーテイクするなど、最終的に6位でフィニッシュした。

一方、39号車坪井は、予選で中団に沈んだこともあり2ピット作戦を敢行する。ソフトタイヤでスタートし、前を走る車に詰まってしまった為9周目でピットイン。14位でピットアウトするも37号車に抜かれて15位に。その後は、順位は他車のピットインで入れ替わり、一時7位までポジションアップ。39周目で2回目のピットインをすると16位でピットアウト。終盤の3ステイント目はミディアムタイヤでこれまでより1秒もラップタイムが落ち、1分38秒台とペースが上がらないまま17位でフィニッシュした。

今回表彰台を逃したのは、戦略よりも戦えるクルマに仕上げる事が出来なかったことが原因。監督の言葉を借りると、このままでは終われない。残り2戦を全力で戦う。



ドライバー #38 石浦 宏明

「5番手スタートという微妙な位置からでしたが、前4台がソフトタイヤを装着していたので、自分は反対のミディアムタイヤを選択しました。スタートは悪くなかったですが、3コーナーで野尻選手に前に行かれました。6周目に燃料がかつかつでピットに向かうと、ピット作業で野尻選手の前に出られたのですが、たまたま自分の前へ2ピット組が出て来たので、前へ出られず10数秒も失ってしまいました。ペースとしては悪くなくうまく走っていました。戦略的に3パターンあったと思うのですが、その相手の戦い方次第でロスが発生してしまうということがわかりました。クルマの性能的にトップを走れるクルマではないので、今回のレースを分析して戦えるクルマを作って次のレースに臨みたいと思います」

ドライバー #39 坪井 翔

「10番手スタートでしたので、ほかの人と同じ作戦だと厳しいと思ったので2ピット作戦にしました。この作戦を取るポジションとしては、自分以降の後方グリッドの人たちがやると思っていたので、クリアなところでうまく走れば勝負ができると思っていました。しかし、燃料の軽い時でもペースが上がらずギャップを稼げなかったため、1回目のピットの時に、37号車のニック・キャッシュ選手に前に出られてしまいました。その時点で勝負が決まったかなと思ってしまいましたが、ニックの前にも速さがなかったため、レースになりませんでした。決勝がなぜこんなに遅かったのか…。想像以上にロングのペースが遅く、いつもとクルマのバランスが違って、早く原因を見つけられないと思います。予選はまずまずだっただけに残念です」





監督 立川 祐路

「いろんな戦略が分かれるレースでした。石浦は、前からスタートするクルマがソフトタイヤだったのでメディアムでスタートして、ミニムでピットに入りソフトに換えて速く走るという戦略だったのですが、序盤に思った以上に後方に下がってしまいました。メディアムタイヤのペースは思いのほか良くなかったですね。坪井は、2ピット作戦で行きましたが、2ピット自体は、思ったほどソフトタイヤがたれないことや、ガソリンが軽ければそれだけ速く走れないといけないのですが、ペースが上がらなかったですね。レースは2台とも厳しいものとなってしまいました。このまま終わりにたくないで、残り2戦決められるように頑張ります」

RESULTS/RANKING

正式決勝結果 (上位10台+抜粋)

Pos	No	Driver	Type	Car	Time/ Behind
1	20	平川 亮	TOYOTA Biz-01F	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	1:22'51.411
2	18	小林 可夢偉	TOYOTA Biz-01F	carrozzeria Team KCMG	2.927
3	37	N.キャシディ	TOYOTA Biz-01F	VANTELIN TEAM TOM'S	9.771
4	64	A.パロウ	HONDA HR-417E	TCS NAKAJIMA RACING	16.314
5	5	福住 仁嶺	HONDA HR-417E	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	18.668
6	38	石浦 宏明	TOYOTA Biz-01F	JMS P.MU/CERUMO INGING	28.439
7	50	L.アウアー	HONDA HR-417E	B-Max Racing with motopark	43.123
8	16	野尻 智紀	HONDA HR-417E	TEAM MUGEN	43.700
9	1	山本 尚貴	HONDA HR-417E	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	43.961
10	4	国本 雄資	TOYOTA Biz-01F	KONDO RACING	44.607
17	39	坪井 翔	TOYOTA Biz-01F	JMS P.MU/CERUMO INGING	1'10.301

ドライバースタンディング (第5戦終了時点 上位5名+抜粋)

Pos	No	Driver	Point
1	37	N.キャシディ	28
2	1	山本 尚貴	27
3	64	A.パロウ	20
4	18	小林 可夢偉	19
5	39	坪井 翔	12
12	38	石浦 宏明	7

チームスタンディング (第5戦終了時点 上位5チーム)

Pos	Team	Point
1	DOCOMO TEAM DANDELION RACING	38
2	VANTELIN TEAM TOM'S	32
3	TCS NAKAJIMA RACING	23
4	ITOCHU ENEX TEAM IMPUL	21
5	JMS P.MU/CERUMO INGING	19